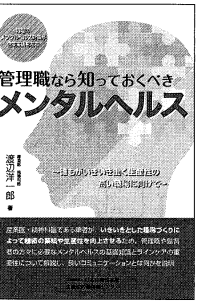
産業精神保健　30（2）：212，2022

Book Review　　**書評**

渡辺洋一郎［著］

管理職なら知っておくべきメンタルヘルス――誰もがいきいき働く生産性の高い職場に向けて



日本生産性本部 労働情報センター／本体：2,000円／2021年11月刊

職場のメンタルヘルスのキーパーソンは管理職であることは言うまでもない．しかしながら，専門的な教育を受けていない管理職にとって，部下のメンタルヘルスを管理することは並大抵のことではない．安全配慮義務にかかわる裁判においても，散々指揮監督を行う管理職の責任や義務が強調されているのを目のあたりにすると，管理職の方がよっぽどうつになってしまいそうである．

そうした管理職をサポートすべくこれまで多くの本が出版されているが，「管理職としてこれを読んでおくべき！」という一冊にはなかなか巡り合えなかった．それは職場のメンタルヘルスに関しては，精神不調の一次予防から三次予防，組織的なリスクマネジメントから生産性向上までと実に幅広い領域をカバーしなければならないため，高いレベルで全ての領域をカバーすることが困難だからだ．しかしながら，本書の著者は，精神科専門医，産業医，コンサルタントして数多くの労働者や企業を支えてきただけでなく，ストレスチェックをはじめとする厚労省のさまざまな委員会や多くの学会・団体の要職も担っており，職場のメンタルヘルスに関するおおよそ全ての領域の経験や知見を有する数少ない人物の一人である．また，著者紹介には記載されていないが，まだ精神障害者雇用が注目されていない2007年から精神障害者就労支援ネットワークの設立・運営にも関わるなど，精神障害者の就労支援にも詳しい．

本書には，こうした著者の経験や知識が余すところなく盛り込まれている．第１章では，代表的な５つの裁判例を通して安全配慮義務とリスクマネジメントの必要性がリアルに示されている．裁判所の判断は，ある時は業務配慮を，ある時はそれよりも医療に結び付けることを優先すべきと，ケースによってまちまちに聞こえ混乱してしまうのだが，その後の第２，３章で一体どのような時にどのような配慮が必要なのか，医療が必要と思われるメンタルヘルス不調の兆候とは何なのかなどについてわかりやすく説明されているので，上記の混乱や疑問はすっきりと解消するであろう．

また，本書には，生産性向上の観点から示唆に富む内容がふんだんに含まれているのも特徴である．より良い職場づくりのためには，何を知り，どんな行動をとるべきか日々悩んでおられる管理職は多いと思われるが，机上の組織論に頼らず，確かな知見や長年の実践から導き出された本書の第４章の内容は，その悩みの解決に大いに役立つであろう．特に，社会原理からみた職場のコミュニケーションについての内容は秀逸である．

本書のタイトルは管理職向けとなっているが，リスクマネジメントから生産性向上に至る実践的な内容は，管理職のみならず，産業保健スタッフや人事労務担当者にも是非読んでもらいたい１冊である．

田中克俊（北里大学大学院産業精神保健学）